

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 I	PC	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石島 多恵／森 晴美／中園 佐恵子／渋谷 美智	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に着けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)
(2)言語1
- (1)言語2
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
- 図書館案内
- (1)言語3
(2)クラスでの自己紹介
- (1)言語4
(2)授業の受け方
- (1)社会1
(2)学生生活(学生相談)
- (1)社会2
(2)学生生活(課外活動1)
- (1)社会3
(2)学生生活(課外活動2)
- (1)社会4
(2)理解と表現(作文など)
- (1)数学1
(2)理解と表現(比較分析)
- (1)数学2
(2)リサーチの方法(情報の集め方)
- (1)数学3
(2)リサーチの方法(レポートの作成)

- (1)数学4
(2)簡単なプレゼンテーション
- (1)確認試験1
(2)マナー
- (1)確認試験2
(2)スタディスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック（ナカニシヤ出版）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務j課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習 II	ET	11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人／佐伯 瑠璃子／吉野 美智子／酒井 新一郎／有村 理	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

- (1)言語1
(2)言語活動(PCの使用実践)
- (1)言語2
(2)言語活動
- (1)言語3
(2)言語活動
- (1)言語4
(2)共同作業
- (1)社会1
(2)共同作業
- (1)社会2
(2)言語活動(PC使用実践)
- (1)社会3
(2)言語活動
- (1)社会4
(2)言語活動
- (1)数学1
(2)言語活動
- (1)数学2
(2)言語活動
- (1)数学3
(2)言語活動
- (1)数学4
(2)言語活動(合唱練習)

- (1)確認試験1
(2)言語活動(ディスカッション1)
- (1)確認試験2
(2)言語活動(ディスカッション2)
- (1)確認試験3
(2)言語活動(PC使用実践)

授業の方法

演習形式

準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育仲社）

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	PC	11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石島 多恵／森 晴美／中園 佐恵子／渋谷 美智	必修	1			

授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業に必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

授業計画

1. (1)言語1
(2)オリエンテーション
2. (1)言語2
(2)資料の探し方(情報検索)
3. (1)言語3
(2)レポートの書き方1
4. (1)言語4
(2)レポートの書き方2
5. (1)社会1
(2)レポートの書き方3
6. (1)社会2
(2)プレゼンテーションの方法1
7. (1)社会3
(2)プレゼンテーションの方法2
8. (1)社会4
(2)プレゼンテーション1(個人発表)
9. (1)数学1
(2)プレゼンテーション2(個人発表)
10. (1)数学2
(2)プレゼンテーション3(個人発表)
11. (1)数学3
(2)プレゼンテーション4(個人発表)
12. (1)数学4

- (2)ディスカッションの進め方(個人発表)
13. (1)確認試験1
(2)ディスカッション1
14. (1)確認試験2
(2)ディスカッション2
15. (1)確認試験3
(2)アカデミックスキル確認演習

授業の方法

演習形式

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育伸社)
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ		11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
各学科教員	必修	1			

授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学びを通して、各自の考えをもち、内面的に自らを磨く。それに並行しキャリアプログラムと合わせ、自身のキャリアデザインを築いていく。

授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、チームでプレゼンテーションを作り上げ、それを発信する力をつけていく。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムから社会で働くこと・社会との関係について考え、自身の将来に意識を向けていく。授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

授業計画

1. ポートフォリオ(学生カルテ)
2. 海星の歴史と建学の精神
3. KAISEIパーソナリティと社会人基礎力
4. キャリアプログラム1「社会を知る」年金制度
5. キャリアプログラム2「社会で働く」とは
6. キャリアプログラム3「職種・業界」を学ぶ
7. キャリアプログラム4キャリアを考える
8. 「K:思いやり」人との共感
9. 「A:自律」これまでの自己の歴史をとおして
10. 「I:知性」耳を傾け、自らを考える
11. 「S:奉仕」他者と自己との関係
12. 「E:倫理」現代の日本社会を考える
13. 「I:国際性」ポータレスの世界 前に踏み出す力
14. 海星パーソナリティの理解と自分の振り返り
15. ポートフォリオ(学生カルテ)

授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①各教員から課題が与えられる。フィールドバックの方法は教員によって異なる。
- ②平常点40%、定期試験30% eラーニング30%

欠席について

欠席1回につき、3点の減点とする。

テキスト

プリント使用

留意事項

eラーニングを課題とし、指定数を完了させること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (キッズ)			13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育士			

授業の到達目標

教職の意義や教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や今後の教員に求められる資質能力について学び、自らの適性を見出す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し、調査・発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員の職務内容、服務上や身分上の義務について理解し、自ら目指す教師像を明確にもつようにする。

授業計画

1. 「教職概論」科目の特性と概要
2. 教職の意義
3. 幼稚園教育と小学校教育
4. 教員の歴史、女性と教職
5. 学校の組織と運営
6. 教員の職務内容
7. 教員に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障
8. 学び続ける教員へ(教員のライフステージと研修制度)
9. 国際化・情報化と教員の役割
10. 学校における社会体験とキャリア教育
11. 様々な問題行動とカウンセリングマインド
12. 特別な支援を要する幼児・児童への対応
13. 学校(園)・地域・家庭の連携と役割
14. チーム学校の意義と実際について
15. 今後の教員に求められる資質能力(専門職としての教員)まとめ
を行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またリフレクションシートや自修シート他の作成により、自己の考えを深め、知識の定着を図る。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①リフレクションシートや課題レポートの提出を2回求め、講義中にフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき、3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

古橋和夫(編)『新訂 教職入門 未来の教師に向けて』2018年(株)萌文書林

参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣
アルマ
文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

留意事項

保育士資格と幼稚園教員免許の併有による「保育教諭」としての要請も高まりつつある。教員を目指す学生としての意識を高くもって授業に臨んでほしい。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (中高)			13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	公立中学校教員			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を学ぶ。教員の資質能力と職務内容について身に付けることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

学校教育や教職の在り方について理解し、教員の資質や能力の向上、研修方法について学ぶ。さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の公教育の意図を考察する。

授業計画

1. 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義
2. 教員の服務と義務
3. 学校制度の変遷と教員養成
4. 公教育の目的と教員の役割
5. 学校の組織と運営における教員の役割
6. 教員の研修の意義と制度
7. 教員に求められる資質能力
8. 教科と教科外の指導
9. 教師力と教員の評価
10. 学校種間の連携、部活動指導での教員の役割について
11. 地域社会との連携における教員の役割
12. 教員の人権感覚
13. チーム学校の在り方と危機管理
14. 教職とボランティア活動の関係
15. 職業としての教職の在り方

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートやレポートにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示された資料を事前に読んで理解したり、中等教育関連の情報を積極的に収集すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

文部科学省編「小学校学習指導要領解説(総則編)」最新版
文部科学省編「中学校学習指導要領解説(総則編)」最新版

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

教員連絡先

mhorii@kaisei.ac.jp

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

乳幼児教育に関する様々な理論の学習や教育実習他の経験を活かし、自分が興味関心をもったことについて、新たな知識と確かな情報を得る。適切な先行文献を選定することを通して、要約し考察する力と、記録する力、伝える力などの表現力を高める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

課題文献・資料を講読し、発表する。ディスカッションを経て新たな課題を見出す。考察力や伝える力、記録する力を高める一つの方法として、栽培活動や乳児向けの教材制作を行う。そして、自分の研究したい内容や方向性に見直しをもつようにする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 自然体験に関する課題文献・資料の講読
3. 文化体験に関する課題文献・資料の講読
4. ドキュメンテーションとポートフォリオ、ラーニング・ストーリーについて
5. 特別支援教育に関する課題文献・資料の講読
6. 防災教育に関する課題文献・資料の講読
7. 認定こども園、小規模保育所に関する課題文献・資料の講読
8. 食育に関する課題文献・資料の講読
9. 乳幼児教育におけるESD
10. 各自の興味関心ある内容の調査と発表①
11. 各自の興味関心ある内容の調査と発表②
12. 各自の興味関心ある内容の調査と発表③
13. 各自の興味関心ある内容の調査と発表④
14. 文献検索の方法と実際について
15. まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。学生が作成した資料にもとづく発表、ディスカッションを通して、多面的な理解や気づき、新たな課題を得られるようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①課題レポートやリフレクションシート他の提出を毎回求め、授業内にフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

留意事項

自ら進んで課題研究に取り組み、提出物の期限を守ること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	d		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、問題意識を持って具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

様々な心理臨床領域における心理学の研究論文を文献講読する。学生が各自、関連する文献を収集・要約・発表し、その研究方法や課題について話し合う中で、各自の卒業研究のテーマを見出す機会を設ける。要約文は各自毎回提出とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 全員で共通の文献講読1
3. 全員で共通の文献講読2
4. 全員で共通の文献講読3
5. 共同研究のためのリサーチの準備
6. リサーチ・結果の処理・データ入力
7. リサーチ・結果の処理・データ入力
8. リサーチ・結果の処理・データ入力
9. リサーチ・結果の処理・データ入力
10. リサーチ・結果の処理・データ入力
11. リサーチ・結果をまとめて各自で発表原稿を作成
12. 共同研究の発表の準備
13. 共同研究の発表の準備
14. 共同研究の発表の準備
15. 全体の振り返りと、個人のテーマの評価

授業の方法

教材とする研究論文を熟読することで、研究論文のスタイルについて学ぶ。また、自分の関心のあるテーマや研究法を探しながら、要約文を作成し、発表することで、論文作成に必要な姿勢を身に付ける。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

共同研究への取り組みと課題の提出状況を評価する。

欠席について

一回の欠席につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題は毎回の授業で提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅰを通して、ドキュメンテーション作成の基本技術を習得する。また、各自の研究したい内容や方向性に基づいて、関連する文献や資料を収集し研究テーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

授業の概要

各自が研究したい内容について、文献や資料を検索したり実習の記録をもとに調査を進めたりする。さらに、発表・討議を通して研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てるようにし、演習Ⅲへの見通しをもつ。

授業計画

1. 演習Ⅱの進め方について
2. 質問紙法について
3. 非構造的面接法について
4. 概念抽出までの手続き
5. 研究活動における倫理
6. 実地研修①
7. 実地研修②
8. 実地研修のまとめ③
9. ドキュメンテーションを使ったプレゼンテーション
10. 研究マップ発表
11. 仮研究テーマでのミニ論文発表①
12. 仮研究テーマでのミニ論文発表②
13. 仮研究テーマでのミニ論文発表③
14. 研究計画、研究方法の検討
15. まとめを行ってから試験をする

授業の方法

伝えやすく、分かりやすい資料作成をもとに、毎回発表し合う。ディスカッションにより、根拠や理由、原因や課題などを見出すようにし、互いの発表内容を高めていくようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

参考図書

『保育学研究倫理ガイドブック』（株/フレール館）『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

提出物は設定された期限までに提出すること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

授業の概要

卒業研究の作成に向けての文献の収集・要約・調査などを行う。自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、共同研究を通じて必要な研究法・手続きについて学び、最後に自分の研究テーマと研究計画の設定を試みる。要約文は毎回提出とする。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 共同研究発表の準備
3. 共同研究発表の準備
4. 共同研究発表の準備・反省会
5. 各自のリサーチ発表1
6. 各自のリサーチ発表2
7. 各自のリサーチ発表3
8. 研究法・手続きについての話し合い1
9. 研究法・手続きについての話し合い2
10. 各自のリサーチ発表4
11. 各自のリサーチ発表5
12. 各自の研究計画の立案と発表4
13. 各自の研究計画の立案と発表5
14. 卒業研究発表・質疑応答の練習
15. まとめ

授業の方法

共同研究の発表後、各自で論文のリサーチ・要約・発表を実施し、論文作成に必要な研究法や手続き、調査を実際に体験する。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

共同研究への取り組みの状況と、毎回の提出課題を評価の対象とする。

欠席について

欠席は1回につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

受講生の提出する論文の要約文を元に文献講読を実施するため、テキストはその都度適宜紹介することとする。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

課題は毎週提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

漠然とした研究のテーマを先行文献や資料を読み深めることで、具現化する。仲間の研究過程を聞き合い、コミュニケーション能力も身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）A（自律）を育成する。

授業の概要

参考図書、先行文献、関連資料の収集から始めてそれらの考え方の類似、相違を模索しながら、発見と納得による研究を進める。

授業計画

1. テーマについて
2. 先行文献について知る
3. 先行文献の感想を発表し合う 1
4. 先行文献の感想を発表し合う 2
5. 問題と目的を明らかにする
6. 問題と目的について討議する 1
7. 問題と目的について討議する 2
8. 問題と目的について討議する 3
9. 問題と目的について討議する 4
10. 研究の方法を知る
11. 個々の研究方法を討議する 1
12. 個々の研究方法を討議する 2
13. 個々の研究方法を討議する 3
14. 個々の研究方法を討議する 4
15. 卒業研究のアウトラインを完成させる

授業の方法

学生相互で討議しながら、互いの考え方を客観的に捉えることができるようにする。

準備学修

テーマに関連するニュースや資料を、出典を明確にして収集すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

必要に応じて指示する

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して、研究テーマに迫るための必要なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(知性)、I(知性)、E(倫理)を養う。

授業の概要

研究計画に沿って、先行文献調査と実地調査の両方を実施する。また、現場での適切な調査方法や分析方法について解説し、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ、今後の研究の見直しをもつようにする。

授業計画

1. 演習Ⅲの進め方について
2. 卒業研究・論文のまとめ方について
3. 研究対象と調査期間について
4. 研究方法と分析方法について
5. 調査の進捗報告と討議①
6. 調査の進捗報告と討議②
7. 各自の先行文献調査のまとめ①
8. 各自の先行文献調査のまとめ②
9. 「問題と目的」の発表・討議①
10. 「問題と目的」の発表・討議②
11. 「研究方法」の発表・討議①
12. 「研究方法」の発表・討議②
13. 仮説と今後の見直しについて発表・調整①
14. 仮説と今後の見直しについて発表・調整②
15. まとめを行ってから試験をする

授業の方法

各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に自己の発表や他者への発言を行い学び合う姿勢を重視する。互いに研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

各自で研究推進への確かな目標をもち、質的・量的調査について計画的に進めること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2				

授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力するなど自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)A(自律)I(知性)E(倫理)を養う。

授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、各考察をより深めるようにする。

授業計画

1. 分析結果報告・仮説の検証①
2. 分析結果報告・仮説の検証②
3. 分析結果と考察①
4. 分析結果と考察②
5. 分析結果と考察③
6. 分析結果と考察④
7. 分析結果と考察⑤
8. 研究のまとめと総合考察①
9. 研究のまとめと総合考察②
10. 今後の課題について
11. 分析結果一覧表の作成
12. 卒業研究の校正①
13. 卒業研究の校正②
14. 最終報告とまとめ①
15. まとめ②を行ってから試験をする。

授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意識と責任感を持ち続けるようにすること。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、 小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とI(知性)とE(倫理)とを養う。

授業の概要

卒業研究作成のために、全体指導と個別指導を実施する。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成させる。

授業計画

1. 調査結果のまとめ1
2. 調査結果のまとめ2
3. 調査結果のまとめ3
4. 結果報告1
5. 結果報告2
6. 結果報告3
7. 結果報告4
8. まとめと考察1
9. まとめと考察2
10. まとめと考察3
11. 要約作成・発表1
12. 要約作成・発表2
13. 要約作成・発表3
14. 研究発表1
15. 研究発表2

授業の方法

卒業研究の進捗状況の報告、プレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

課題の提出状況、演習への参加状況を評価の対象とする。

欠席について

1回の欠席につき5点、遅刻につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

テキスト

受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。

参考図書

適宜紹介する

留意事項

心理統計法を受講していることが望ましい。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ボランティア論			17505	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	市職員（福祉職）、社会福祉士			

授業の到達目標

わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な形態で展開されている。授業では、ボランティアの理念・原則・分野の基本を学習しながら、「興味」「関心のあるテーマ」「専門的学習への動機」などを個人で具体化し、体験活動に参加することを目標とする。体験活動を振り返ることを通じて、福祉の対象者への関心や能動性を高め、将来の社会参加や社会貢献に繋げることを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）A（自律）S（奉仕）を養う。

授業の概要

授業では、講義、討議、実践、プレゼンテーションを織り込みながら、参加のモチベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」などを、グループを基本にして全員で考える。次に、基本理念、歴史、組織や活動の実際について事前学習を行い、体験活動に参加する。体験活動後の討議、交流、プレゼンテーションなど事後学習を通じて、それぞれにとってのボランティアの意義や、参加意識を深めていく。

授業計画

1. ボランティアとは？（グループ討議）
2. グループ発表
3. ボランティア活動のキーワードを見つける
4. ボランティアの基本理念と歴史
5. 地域でのボランティア活動の実際
6. 社会福祉施設等でのボランティア活動の実際
7. 災害とボランティア（阪神淡路大震災と東日本大震災）
8. ボランティアセンターの機能と役割
9. 体験活動のための知識と準備
10. ボランティア活動の体験（1）
11. ボランティア活動の体験（2）
12. 体験活動の記録化と振り返り
13. グループ討議と発表
14. プレゼンテーション（体験活動の成果）
15. まとめとしての講義の後、ボランティア体験活動のレポート提出を求める

授業の方法

ボランティア体験を基本として事前学習と事後学習により進める。グループ討議とプレゼンテーションを取り入れていく。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法

ボランティア体験活動（必須）のレポート、及び平常点（随時進行資料の提出がある）による。

欠席について

グループ討議や作業もあり原則は認めない。

テキスト

特に指定はしない。

参考図書

特にはない。必要な資料を配布する。

留意事項

3日間の体験活動への参加をはじめ、集団学習に取り組むことが必要である。体験の実践にあたり個別相談や指導を行う。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
図画工作	①/②		17509	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2				

授業の到達目標

改訂の趣旨を踏まえ、図画工作科の目標と内容を演習・実習を通して理解する。また、造形表現の発達の過程や特徴について知る。そして、自己表現の喜びや達成感を得られ、豊かな情操をはぐくむ指導の在り方を理解することを旨とする。表現意欲や鑑賞活動を重視することで、個々の表現の多面的理解に努める。実習を通して児童の思いを推測し、適切な評価ができる力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

授業の概要

子どもの発達に即した表現方法や、材料・用具の基本的な扱い方について、講義と実習を行う。また、鑑賞の機会を重視し、各自の表現のよさや工夫等を見出すため評価シートや情報機器を活用して発表の機会をもつ。そして、感性を高め合い、実践力を養うようにする。作品の一部は地域の子育て支援活動にかかす。

授業計画

1. 図画工作科の改訂のポイントと資質能力
2. 図画工作科の内容と幼稚園からの接続、中学校への接続
3. 造形的な視点 色と形の出会い
4. 造形遊びををする活動 並べたり積んだりして
5. 絵に表す活動 パスを使って
6. 絵に表す活動 筆やペンを使って
7. 立体に表す活動 土粘土を使って
8. 立体に表す活動 教材用粘土を使って
9. 工作に表す活動 伝統文化と関連して
10. 工作に表す活動 様々な用具を扱いながら
11. 身近な材料を使った表現 リサイクルの視点で
12. 生活に役立つものを作る 防災の視点で
13. 生活を楽しく豊かにする 鑑賞の活動
14. 情報機器を活用した活動
15. 外部資源の活用と連携 まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義と実習・演習を主とする。制作した作品をもとに鑑賞活動を深め、学び合いの機会をもつ。

準備学修

Webを参照すること。

課題・評価方法

- ①実習課題の構想シート、制作物、作品カード、リフレクションシートの提出を求める。講義においてフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』

留意事項

実習・演習は、学習課題により個人・及び小グループで行う。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（幼保）			17613	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育士			

授業の到達目標

教職の意義や教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や今後の教員に求められる資質能力について学び、自らの適性を見出す。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し、調査、発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員の職務内容、服務上や身分上の義務について理解し、自ら目指す教師像を明確にもつようにする。

授業計画

1. 「教職概論」科目の特性と概要
2. 教職の意義
3. 幼稚園教育と小学校教育
4. 教員の歴史、女性と教職
5. 学校の組織と運営
6. 教員の職務内容
7. 教員に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障
8. 学び続ける教員へ(教員のライフステージと研修制度)
9. 国際化・情報化と教員の役割
10. 学校における社会体験とキャリア教育
11. 様々な問題行動とカウンセリングマインド
12. 特別な支援を要する幼児・児童への対応
13. 学校(園)・地域・家庭の連携と役割
14. チーム学校の意義と実際について
15. 今後の教員に求められる資質能力(専門職としての教員)まとめ
を行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またリフレクションシートや自修シート他の作成により自己の考えを深め、知識の定着を図る。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①リフレクションシートや課題レポートの提出を2回求め、講義中にフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

古橋和夫(編)『新訂 教職入門 未来の教師に向けて』2018年(株)萌文書林

参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著 『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣アルマ 文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

留意事項

保育士資格と幼稚園教員免許の併有による「保育教諭」としての要請も高まりつつある。教員を目指す学生としての意識を高くもって授業に臨んでもらいたい。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（小）			17613	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	市教委指導課指導主事			

授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を学ぶ。教員の資質能力と職務内容について身に付けることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

授業の概要

学校教育や教職の在り方について理解し、教員の資質や能力の向上、研修方法について学ぶ。さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の公教育の意図を考察する。

授業計画

1. 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義
2. 教員の服務と義務
3. 学校制度の変遷と教員養成
4. 公教育の目的と教員の役割
5. 学校の組織と運営における教員の役割
6. 教員の研修の意義と制度
7. 教員に求められる資質能力
8. 教科と教科外の指導
9. 教師力と教員の評価
10. 学校種間の連携、部活動指導での教員の役割について
11. 地域社会との連携における教員の役割
12. 教員の人権感覚
13. チーム学校の在り方と危機管理
14. 教職とボランティア活動の関係
15. 職業としての教職の在り方

授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートやレポートにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

準備学修

指示された資料を事前に読んで理解したり、中等教育関連の情報を積極的に収集したりすること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

テキスト

文部科学省編「小学校学習指導要領解説（総則編）」最新版

参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・言葉			17633	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、民間保育士			

授業の到達目標

乳幼児期の言葉の発達の概要を理解する。言葉を獲得し思いを伝え合うようになるための環境や遊び、指導援助の方法について学ぶ。発達を理解し生活の流れに即した教材選定力や保育指導案の作成力と実践力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

授業の概要

乳幼児の言葉の発達を詳説し、視聴覚教材を活用して、さらにイメージを確かなものにする。そして、言葉の育ちを促す絵本やお話の教材研究や、保育指導案作成と模擬保育を行う。また、発達に即した教材制作を通して言語環境を整え、乳幼児の豊かな言葉と言語活動を育む保育を学ぶ。

授業計画

1. 領域「言葉」について
2. 乳幼児の言葉の育ちを支える要因
3. 乳児期の発達と言葉の獲得
4. 乳児期の言葉の発達を促す保育と教材
5. 満1歳以上満3歳未満児の発達と言葉の獲得
6. 満1歳以上満3歳未満児の言葉の発達を促す保育と教材
7. 満3歳以上の幼児の発達と言葉の獲得
8. 満3歳以上の幼児の言葉の発達を促す保育と教材
9. 言葉の獲得において特別な支援を要する乳幼児への保育
10. 豊かな言葉を育む児童文化(歌、手遊び、言葉遊び)(情報機器及び教材の活用を含む)
11. 豊かな言葉を育む児童文化(絵本や紙芝居)
12. 豊かな言葉を育む児童文化(人形劇やペープサート、パネルシアターやエプロンシアター等)
13. 伝え合い分かり合う楽しい劇遊び(情報機器及び教材の活用を含む)
14. 模擬保育と振り返り
15. まとめを行ってから試験をする

授業の方法

講義を主とするが、言葉をはぐくむ保育実践についての発表を加える。また、教材を制作し教育実習や保育実践にいかす。知識の定着

を図るため、小テストを行う。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

- ① 絵本データシートや、自修シートの提出を2回、模擬保育(教材の作成を含む)を課題とする。講義の中でフィードバックを行う。
- ② 平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき3点、遅刻1回につき1点の減点とする。

テキスト

岸井勇雄・無藤隆、湯川秀樹[監修]太田光洋[編著]『保育・教育ネオシリーズ20 保育内容・言葉 第三版』2018年(株)同文書院

参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省『保育所保育指針解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

留意事項

保育の基礎技術を高めるため、わらべ歌や言葉遊び、絵本、幼児用テレビ番組などに日頃から親しんでおくこと。地域の図書館での企画展示やおはなし会などに関心をもつこと。

教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教学課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護			17638	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	2	重症心身障害児施設職員			

授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について理解する。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実践について理解を深めることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

授業の概要

児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習する。特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっている。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実態を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とする。

授業計画

1. 子どもの社会的養護
2. 日本における社会的養護のしくみ
3. 社会的養護に携わる専門職
4. 家庭支援の理論と実践
5. 児童虐待の現状と対応
6. 家庭的養護の理念と里親制度
7. 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
8. 児童養護施設の歴史と自立支援
9. 非行のある子どもの自立支援
10. 情緒障がいのある子どもの社会的養護
11. 知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護
12. 児童養護施設における子どもの権利擁護
13. 当事者から見た日本の社会的養護
14. 児童福祉施設職員に求められるもの
15. まとめ、質問タイム

授業の方法

講義を主とするが、必要に応じてVTR、DVD等で児童養護の現状に

ついて理解を深める。また、双方向の授業であるから積極的に参加をすること。

準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておくこと。

課題・評価方法

その他

欠席について

公欠以外の欠席は認めない。

テキスト

『保育の質を高める相談援助・相談支援』晃洋書房、西尾 祐吾監修、立花 直樹・安田 誠人・波田 聖 英治編、ISBN 978-4-7710-2607-0

留意事項

児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修をすること。また、「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関連しているため、教科書は必ず購入すること。